

検査機器ニュース

(1) 2005年(平成17年)4月20日(水) (毎月5・20日発行) (昭和34年12月28日第3種郵便物認可) 第1064号

機械学会配管 減肉タスク

技術規格づくりが本格化

日本機械学会・発用設備規格委員会の配管減肉対応特別タスク(朝田泰典主査)は、3月30日に開催した第5回会合で、早ければ4月末までに発行される機能性規格「発用設備規格 配管減肉管理に関する規格」(2005年版)の紹介とともに、技術規格の具体的な方向と進捗状況について担当から報告後、意見を交換した。

9月をめぐり原案策定に取組むPWRからは技術規格を挙げながら本文イメージを「試験の時期について、本文のイメージと検討の方向を示し、出席者からは「規格の何定稿とどこか、余寿命に性・スケジュールの案が紹介、目的を明確にするうえで全体としてどう関係を設定するのか」とのコメントを伺うことが、議論が必要」など多くの指摘

が、火力からは、点検フローチャート案と試験方法の検討状況が示された。なかでも公認等により実施した検査方法の提案に関しては、海外等における適用実績紹介を含めた新技術のうち、「電位差法」「3D超音波」「放射線透過

法」があげられた。これら検査方法の技術規格の取り入れについては、次回(4月27日)以降のサファタスクで審議を予定している。また火力からは、3月月末までに進めてきた規格案づくりについて、おおよそ1ヵ月遅れになるとの報告もあった。

火力では電位差法、3DUTなども検討対象に

重要「(試験方法のなかで、

の主要点検系統の重要「(試験方法のなかで、

重要「(試験方法のなかで、

重要「(試験方法のなかで、

機関の原子力(PWR、BWR)および火力の各サファタスクから検討状況が報告され

機関の原子力(PWR、BWR)および火力の各サファタスクから検討状況が報告され

機関の原子力(PWR、BWR)および火力の各サファタスクから検討状況が報告され

機関の原子力(PWR、BWR)および火力の各サファタスクから検討状況が報告され

機関の原子力(PWR、BWR)および火力の各サファタスクから検討状況が報告され

機関の原子力(PWR、BWR)および火力の各サファタスクから検討状況が報告され

ローション(浸食、埋食)とする。一般的には、浸食、埋食が汎用のようです。また、浸食、かい食、エロージョンも使われています。日本機械学会の論文集のキーワードでは、材料編でエロージョンは浸食になっており、流体編ではエロージョンが埋食になっています。また、機械工学便覧では、キャビテーション・エロージョンのところで浸食(浸食)となっています」

また参考として添付する図「減肉の発生・進展を考慮すべき部位の例」について「ヘルボ、単相流の場合、流れの内側に渦をまき」とあり、エルボの内側(inner radius)が減肉するようになるとの意見に対しては「誤解を与えないように、減肉メカニズムの表記は流況の解説として解説の表現に修正し、これにあわせて図中の表現を一部見直し、改定図として新たな減肉の発生・進展を考慮すべき部位の例に修正する」と回答することをそれぞれ承認した。これらの公衆意見への対応については、ホームページ上にも掲載するとしている。なお配管減肉対応特別タスクの次回(第6回)会合は、5月24日の開催を予定している。